

各 位

平成 28 年 11 月 15 日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



秋（10月から11月）にも開花するジュウガツザクラ

野草園には、秋（10月から11月）にも開花するジュウガツザクラ（十月桜）があります。これは春（4月）と秋の2回花が咲き、花は淡紅白色で八重咲きです。この寒い時季、葉を落とした後にも咲き続けています。昆虫もいない時期になぜたくさんの花を咲かせるのか不思議です。

11月後半の野草園では、赤や黒っぽい果実のつく樹木が見られます。それらの果実は食べ物の少ない冬、鳥たちの餌になるのかもしれませんが。樹木の紅葉が終わり、植物たちはまもなくやって来る冬の寒さの備えを始めています。同時にその後の春の萌え出しの準備も着々と進めています。この時季、多くの樹木の冬芽を確認することができます。冬芽は、寒さを防ぐために鱗片などでおおわれ、春になると伸びて葉や花になります。

今後、野草園は11月いっぱい休園に入ります。たくさんの雪で覆われる野草園は冬期休園期間中もいくつかのイベントを予定していますが、4ヵ月間休園します。今年度の来園に感謝して、来年度も皆さんの憩いの場となるように、運営面でも工夫していきますので、どうぞよろしくお願い致します。来春4月の開園時には、ザゼンソウやミズバショウ、オオミスミソウやフクジュソウなどの早春の花が来園者を出迎えてくれることでしょう。

冬期休園：12/1（木）～ 平成29年 3/31（金）

11月後半の予定

- ◆【きのこ汁の振舞い】 ○日 時 11/20(日)、27(日) 11:00~12:00
○対 象 入園者 各日先着20人(当日9:00~引換券配布)

春の開園日までの予定

- ◆【四季観察会 ④】 2/16(木) 10:00~12:00 —樹木と冬芽— 講師:志鎌 節郎 氏
◆【四季観察会 ⑤】 3/8(水) 10:00~12:00 —早春の植物— 講師:佐竹 恵一 氏
◆【そり滑り】
○日 時 2/20(月)~24(金) 10:00~12:00 保育園、幼稚園の団体のみ
2/25(土)・26(日) 10:00~14:00 一般

◆【フレオープン】

正式な開園に先駆けて、**3/25(土)、26(日)9:00~16:30**に野草園は**“フレオープン”**します。冬の間、植物たちはどのように春を待っていたのでしょうか。是非、春に目覚める植物たちの様子を見にいらしてください。

※フレオープン中のガイドウォーキング

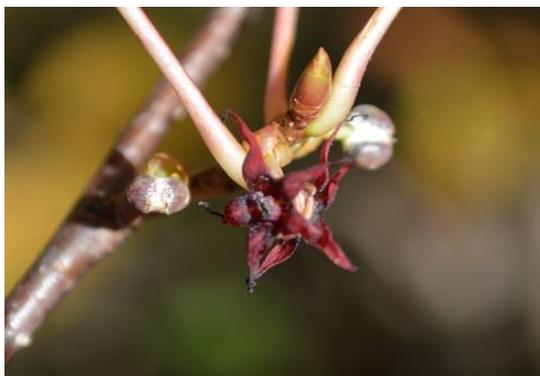
正式開園後のガイドウォーキングは、毎週日曜日に設定していますが、プレオープン期間の2日間も行います。ぜひご参加ください。

○時 間 10:00~11:00、11:00~12:00、13:00~14:00、14:00~15:00 の4回

○内 容 野草園職員と一緒に野草園内を案内し、散策します。申し込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。雪解けの湿地や林下に咲く早春の花たちを見てみませんか。

◆4月1日(土) 野草園の開園日…入園記念に、花の苗をプレゼントします(先着100名)。

★★★ 11月後半に見られる花と樹木の果実と冬芽 ★★★



マルバノキ(マンサク科)

山地の谷間などに生える落葉低木です。葉は互生し、卵円形または円形で基部は心形です。秋には美しく紅葉します。葉のわきのごく短い柄の先に、暗紅紫色の花を2個背中合わせに開きます。花弁は5枚あり、星形に平開します。マルバノキはその葉が丸いことに基づき、別名ベニマンサクはその花が赤色であることに基づいた名前です。野草園では、シーズン最後に開花する花です。



十十カマド(バラ科)の果実

山地の林縁などに生える落葉小高木で、夏に白い花を咲かせます。山形市のシンボルの木としても知られています。今は赤い果実がたくさんぶら下がっています。この果実は冬に葉が落ちても残ります。美味しくありませんが、冬になると餌が少なくなり鳥たちが食べるようです。



クサギ(シソ科)の果実

日当たりのよい山野の林縁や沿海地に生える落葉の小高木です。花は、芳香のある白花を多数つけます。花の後、萼はこのようなきれいな濃紅色になり、深裂して星状に開き、中央に藍色の果実をのせます。花も見ごたえがありますが、萼と果実のコントラストもきれいです。名は臭木で葉に臭気があることによります。



ムラサキシキブ(クマツツラ科)の果実

低い山地や野原に生える落葉の低木です。葉は対生し、楕円形で縁には鋸歯があります。葉の付け根から集散花序をだし、多数の淡紫色の小さな花をつけます。萼は短い鐘形で浅く5裂し、花冠は先が4裂します。今、球形で紫色に熟した果実を付けて、見る人の目を楽しませてくれます。



ツルウメモドキ(ニシキギ科)の果実

日本を含め、東アジア一帯に自生する落葉つる性の木本。伸びた枝の先に、黄緑色の花を集めて付けていましたが、今は、淡黄色に熟した果実がはじけ、3つに裂開し、その中から赤い種子が見えています。その姿がきれいなので、生け花の材料によく使われます。



イイギリ(ヤナギ科)の果実

本州以南に分布する落葉高木。和名の由来は、昔、その大きな葉で飯を包んだため「飯桐」と言われるようです。ブドウの房のように垂れ下がった果実は、ナンテンに似ているので、「ナンテンギリ」とも言われます。おいしそうな実ですが、まずくて食べられないようです。



サンシュユ(ミズキ科)の果実 中国原産の落葉高木で、江戸時代に薬用植物として渡来しました。春、葉が開く前に淡黄色の小さな花をたくさんつけるので“春黄金花”と言われますが、秋は赤く熟す果実から“秋珊瑚”の別名があります。果肉を乾燥したものを強壮、強精などの薬用に、果実を果実酒にします。



カリン（バラ科）の果実

落葉高木で、葉の縁には小さな刺状の硬い鋸歯が多数並びます。樹皮は鱗状にはがれ褐色の斑模様になります。花は淡いピンク色です。今は淡黄色の大きな果実が枝についています。その果実はカリン酒などの原料になります。マルメロ属の果実も「かりん」と称されることがありますが、正しくはマルメロです。



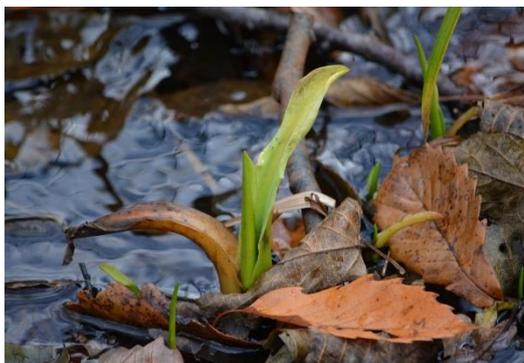
ナツハゼ（ツツジ科）の果実

山野に生える落葉低木で、6月にはたくさんの淡黄赤色の小さな鐘形の花を枝につけていました。今は、上部に横の線が見られる黒い球状の果実（液果）をたくさんつけています。園内にはたくさんの樹木が果実をつけますが、ナツハゼの果実には酸味があり、食べて美味しいです。



ザゼンソウ（サトイモ科）の冬芽

3月下旬頃に花が咲き始めます。花は紫褐色の仏炎苞の中に多数の小花をつけた丸い花序です。（右写真）今は、地面から暗褐色の冬芽を出しています。春になると冬芽から仏炎苞が成長してきます。



ミスバショウ（サトイモ科）の冬芽

花は、白色の仏炎苞の中に多数の小花をつけた細長く黄緑色の花序です。清楚な感じがします。（右写真）今は、水面に緑色の冬芽を出しています。これが春になると葉に成長し、その後仏炎苞を出します。



アセビ（ツツジ科）の冬芽

春には白い壺形の小さな花を下向きにたくさんつけています。（右写真）花は美しいが有毒植物です。秋には褐色に熟す果実は上向きにつきます。今は枝に沢山の冬芽をつけています、春になるとこれが花に成長します。



ホオノキ (モクレン科) の冬芽

枝先に径20cm以上の白い花が付きま
す。萼と花卉の区別は明瞭でなく9枚ほ
どで、雄しべは多数で花糸は赤く、雌し
べは円錐形で多数集まったものです。(右
写真)今は灰色のキャップ状の芽鱗に包
まれています。



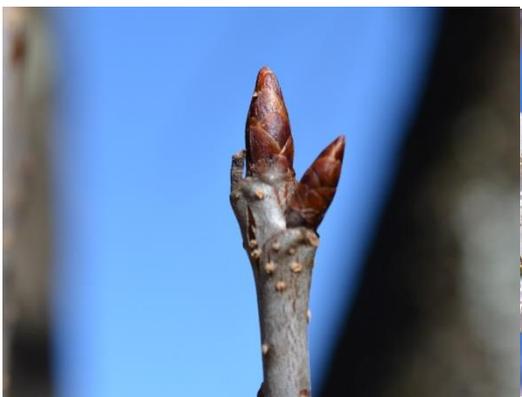
トチノキ (ムクロジ科) の冬芽

1つの小花は白色で基部がやや紅色を
帯びた4弁花で、雄しべは長く花の外に
出ている。それが20~30個集まり
円錐形の花序をつくっています。今は枝
先に茶色の冬芽をつけています。表面は
樹脂を出し粘性があるのでさわるとペ
タペタします。



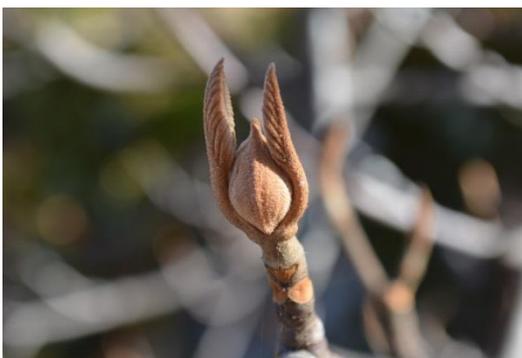
キタコブシ (モクレン科) の冬芽

春に白い6枚の花弁の花が咲きます。花
の下に小さな葉が1枚付きます。(右写
真)今は枝先に寒さをしのぐため白い毛
でおおわれた冬芽をつけています。暖か
くなるとその冬芽から花が出てきます。
そばに葉の冬芽もあります。



オオヤマザクラ (バラ科) の冬芽

赤みがかった色をした若葉が開くと同
時に淡紅色の花を咲かせます。花柄は
無毛です。(右写真)今は枝先に、寒さ
を防ぐために茶色の芽鱗で覆われた冬
芽をつけています。茶色の芽鱗にはソ
メイヨシノのように短毛がなくスベス
ベしています。



オオカメノキ (スイカスラ科) の冬芽

5月頃にガクアジサイに似た白い花を
咲かせます。花の中心部は小さな両性
花、周りは装飾花です。(右写真)今は
枝先にウサギの頭のような形をした冬
芽がついています。中央が花の冬芽で
両端が葉の冬芽です。